

幕張ベイタウン
住民アンケート

報告書

平成 25 年 3 月

ベイタウンマネジメント円卓会議

幕張ベイタウン協議会

千葉大学大学院工学研究会中山研究室

平成 12 年(2012 年)8 月 住民アンケート報告書目次

	ページ
I はじめに	
1 住民アンケートの趣旨 ～新しい街幕張ベイタウンの価値と生活の維持・向上を目指して	2
2 住民アンケートの方法と回収 ～住民の家族構成、回答者の年代・性別	3
3 住民アンケートの概要 ～住民アンケートから何が見えるか	5
II アンケート項目別の集計	
■1. まちの評価について	7
■2. 防災・防犯について	9
■3. こども・学校について	12
■4. 商店街について	13
■5. まちの情報について	16
■6. 地域活動・コミュニティについて	17
III 意見欄のまとめ	
今後のまちづくりについて自由意見	21
IV 結びとして	
～ベイタウンの課題・住環境の維持	24
V 資料付表	
付1 クロス集計について	27
付2 アンケート回収データ、集計データ	31
付3 (4-5)商店街にあったらいい店	33
付4 こども円卓会議発表(抜粋)	34

I. はじめに

1. 住民アンケートの趣旨

～新しい街幕張ベイトウンの価値と生活の維持・
向上を目指して



幕張ベイトウンは平成7年(1996年)に入居が始まり、平成24年(2012年)3月末では8,431世帯、23,593人が住む街となりました。幕張ベイトウンは、高水準の公共施設と質の高い建築物とがデザインガイドラインに基づいて一体的に整備されている、美しい街並景観を有し快適な都市生活を提供する新しい街です。

しかしながら、この幕張ベイトウンの開発事業を担ってきた千葉県企業庁は、平成24年度を以て組織を大幅に縮小し都市開発事業を収束します。また、道路や街路灯、共同溝、公園など公共施設は順次千葉市へ移管される予定です。そのような中で、私たちベイトウンの住民は、住民による主体的なまちづくりを通じて、まちの優れた景観や安全で快適な都市生活、高水準の都市機能などの生活環境の維持・向上を図るため、平成23年(2011年)6月に地域住民・団体に組織する「幕張ベイトウン協議会」を発足させました。

幕張ベイトウン協議会は、平成24年度の千葉県「連携・協働による地域課題解決モデル事業」に千葉市などと連名で事業申請し、県の事業採択を受けて、「ベイトウンマネジメント円卓会議」を組織しました。ベイトウンマネジメント円卓会議は、幕張ベイトウン協議会をはじめ、自治会連合会や社会福祉協議会打瀬地区部会などのまちの諸団体がステークホルダーとして参画し、地域課題について共通認識を持ちつつ課題解決のための取組みを行ってまいりました。

私たちの住むベイトウンは、今のところ高齢化率が約6%(H24.3.31 現在)と非常に若いまちですが、今後は当然のことながら高齢化が進んでいきます。地域内での子どもたちと高齢者の世代間の交流や支え合いの充実などを通じて豊かなコミュニティを創りあげていくこと、防災防犯の意識を高め対策を講じていくこと、商店街との協働でまちの賑わいを創出していくことなどに住民一人一人が関わることで、ベイトウンをより住みやすく誇りを持てるまちとしていくことに繋がっていくと思います。

このような問題意識から、千葉大学中山研究室と協働し、自分たちのまちについて住民がどのような見方をしているのか、住民アンケート(‘ベイトウンのことについてお聞かせください’)を実施し、評価や意見を集めました。平成24年8月に8,431戸へ

アンケートをポスティングして、2,150 件の回答(回収率 25.5%)をいただきました。以下に、その集計結果をご報告致します。

2. 住民アンケートの方法と回収

～住民の家族構成、回答者の年代・性別

ベイタウンマネジメント円卓会議では、先ず最初に、参加していただいた各団体代表等のステークホルダーにより、ベイタウンの課題について意見交換するワークショップを開催しました。その議論を踏まえ、住んでいる人々はなぜこの場所を選択したのか、実際に住んでみて日常の生活に満足しているのかを住民アンケートで調べようということになりました。住民がどのような認識、評価、感想、不満や提案、意見を持っているのか等について、ステークホルダーの間でアンケートの設問内容を 2 ヶ月かけていろいろな角度から検討した結果、多方面にわたる盛りだくさんの質問項目となりました。さらに、ベイタウンの都市計画を建築の立場から吟味しようという千葉大学の中山研究室の研究課題を加えて、質問項目は、ソフトとハードの内容に関わる二部構成となりました。都市計画や環境・景観の評価、防災・防犯、教育環境、商店街、情報、地域活動、集合住宅の課題まで 15 頁 43 項目の多岐にわたる膨大な質問となりました。

また、多様な意見を収集するべく自由記述欄をたくさん設けたため、回答者には負担がかかるアンケートになったにもかかわらず、美浜区打瀬 1 丁目から 3 丁目まで 8,431 世帯のうちから 2,150 件の回答をもらいました。原則として世帯主の回答としましたが、家族で回答された方もあるようで、回収率は 25.5%でした。



回収率は、前回の平成 19 年(2007 年)実施の住民アンケートの 29%に及ばなかったものの、かなり高い回収率であったと受けとめています。

家族構成で見ると、親と子どもの家族が 64%、夫婦のみが 27%、一人住まいが 7%でした。

年齢別の回答者数は、10 代・20 代は 17 人(1%)と少なく、30 代は 342 人

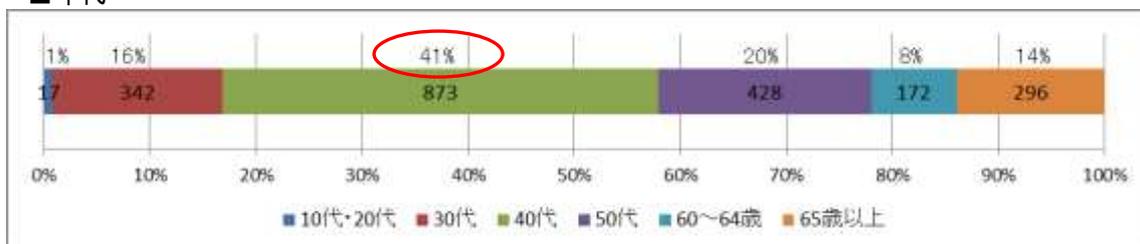
(16%)、40代は873人(41%)と一番多い年代でした。続いて50代が428人(20%)、60～64歳が172人(8%)、65歳以上は296人(14%)でしたが、60歳以上をまとめると468人22%となります。

これらの割合は、40代をピークとする居住人口の中心(42歳)に対応するものです。

■家族の構成

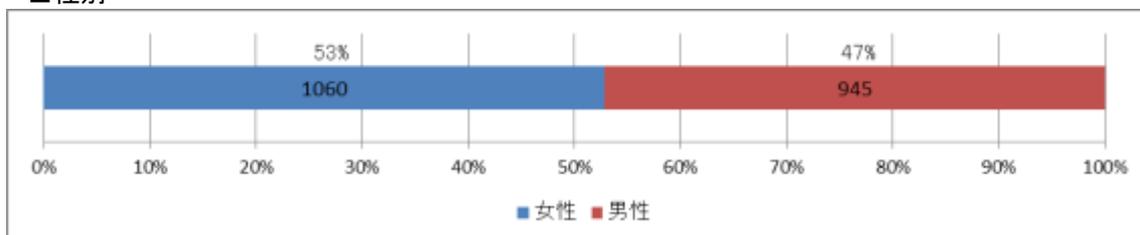


■年代



回答者を性別で見ると、女性1,060人、男性945人でした。性別の記入がないもの149件を男女比率で按分するとほぼ拮抗しているとみて良いと思います。女性の意見が多数寄せられたことは、日中は主婦の立場の女性が主にまちにいることから、まちをよく観察し関心度も高いことを示していると推察できます。

■性別



- 1) アンケート対象: ベイタウン全世帯、39街区
- 2) 配布方法: 全世帯へのポスティング
- 3) アンケート実施時期: 平成24年8月5日～2週間
- 4) 回収方法: 各街区に回収箱を設置し回収(8月16日～23日)
- 5) 集計: 平成24年9月～10月 千葉大学大学院工学研究科中山研究室

3. 住民アンケートの概要

～住民アンケートから何が見えるか

・自由記述欄に内容を整理し切れないくらいたくさんの多様な意見が寄せられました。このことは、住民のまちへの愛着、関心の高さを示すものと言えます。

設問内容

- 00 属性
- 01 まちの評価について
- 02 防災・防犯、地域の助け合い・見守
安全・安心に関する意識について
- 03 こども・学校について
- 04 商店街について
- 05 まちの情報について
- 06 地域活動・コミュニティについて
- 07 住棟・街の住みこなしについて
(住宅計画・建築上の住環境)

・居住年数は、ベイトウンに10年以上住んでいる人が39%、10年未満の人が61%ですが、住み心地については75%の人が満足・大いに満足であり、まあまあを含めて肯定的な評価が95%と大多数を占めました。

・まちの評価は、景観・街並みを5段階評価の4以上の高評価とするものが94%と最も多く、次いで保育、学校教育施設の充実をあげるものが62%でした。評価が低いものは参加したいと思う地域活動の充実度と近所付き合いの充実度で30%前後でした。新しい街なので人づきあいや、地域活動についての理解・認識がやや低いという傾向でした。

・防災については72%の人が不安を感じており、その理由はインフラ破損時の水・食料等の調達でした。子どものいる世代の不安感が大きいと読み取れます。防犯について不安に思っている人は51%と約半分で、不審者の目撃情報等で地域における防犯情報等の共有が多く挙げられました。こどものいる世代と60～64歳の不安感が大きいことが分りました。

・こどもと学校についての設問で、学校と関わりがあるとする人は38%で、保護者会のつながりが大多数でした。今後、さらに充実した取り組みとして自然環境を含めたま

ちの環境の向上が今後の教育環境として望ましいと答えた人が多くいました。50代以上においては、生涯学習の場の提供を求める比率が高い結果となりました。

・商店街について利便性が満足の答えが 20%、まあまあが 49%、多少不満・不満が 32%でした。3分の1の人が商店街になんらかの不満を持っていることに留意すべきで、街のにぎわいや利便性への期待や今後の更なる発展の余地を示しているともいえます。欲しいお店の記述を見るとないものねだりを含めて多数あり、商店街と住民の緊密な結びつきは今のところやや希薄と言えましょうか。ベイトウン内でよく利用するのは医療関係で、毎日と週に2, 3回を合わせて40%と主に医療機関が利用されているという結果でした。

・ベイトウン内の情報については、不足していないが 33%で、不足している 27%を上回っていますが、わからないと答えた人が40%と最も多く、何がまちの情報と言えるのか質問自体がやや漠然としていたからでしょう。不足している地域情報としては商店街情報や住民による地域活動の情報、事故・防災等の情報があげられました。

・地域活動、コミュニティについて、まちの中心であるベイトウンコアについては、たまに利用する人を含めて利用する人が 69%あり、知らない、関心がないは 8%でした。図書館の利用が最も多く、65 歳以上の人利用頻度が突出しています。ベイトウン内の活動では60歳以上の人参加している比率が高いと見られます。

・優先的に取り組むべき課題としては、整備水準の高い公共施設の維持が最も高く、次いで優れた景観・街並みの維持、防災・防犯の・安全なまちづくり、商店街の活性化と続いています。65歳以上において地域活動拠点の必要性を感じている比率が高く現れています。大人の中心を占める40歳代のまちの地域活動参加が今後の課題と言えるかもしれません。

・全世代に共通して、住み心地に満足しており、特に若い世代ほど満足度が高いことが明らかになりました。

・自由記述の内容は迷惑駐車、路上駐車等マナーに対する意見が最も多く寄せられ、まちの景観に関わるものが次に多く、ゴミ空気輸送システムの存続を論じた記述も少なくありませんでした。

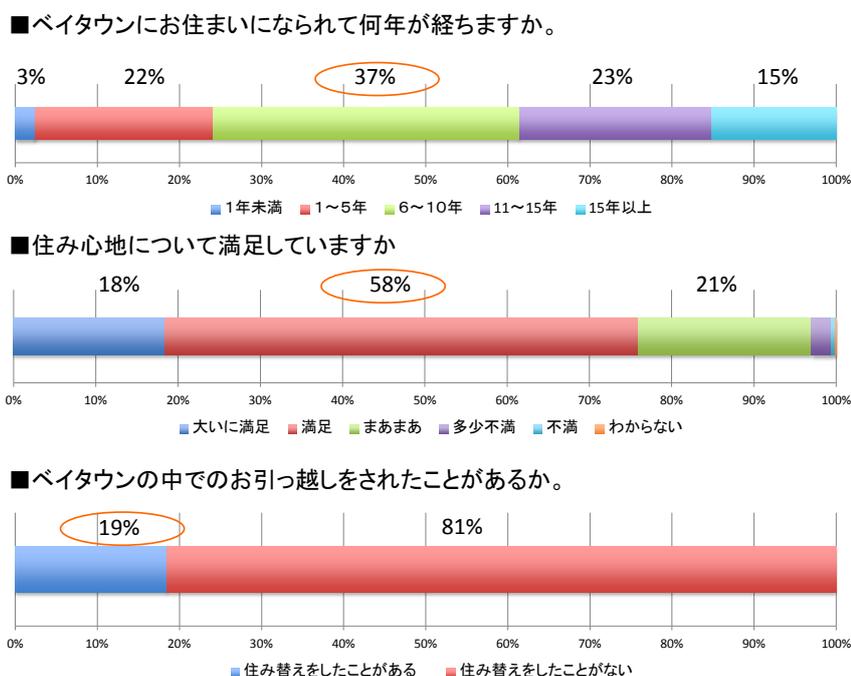
II. アンケート項目別の集計

■ 1. まちの評価について

幕張ベイトウンは、計画的に整備されたまちです。デザインガイドラインにより建物・道路・街路灯・街路樹・公園など統一した景観をもつようにコントロールされ、学校やベイトウンコアなどの充実した公共施設も設置されています。

1-1 ベイトウンの居住年数

ベイトウンの居住年数を訪ねたところ、6年から10年の人が一番多く37%、10年以上住んでいる人が38%で、1995年から順次住み始めた割合とバランスしています。



1-2 住み心地について

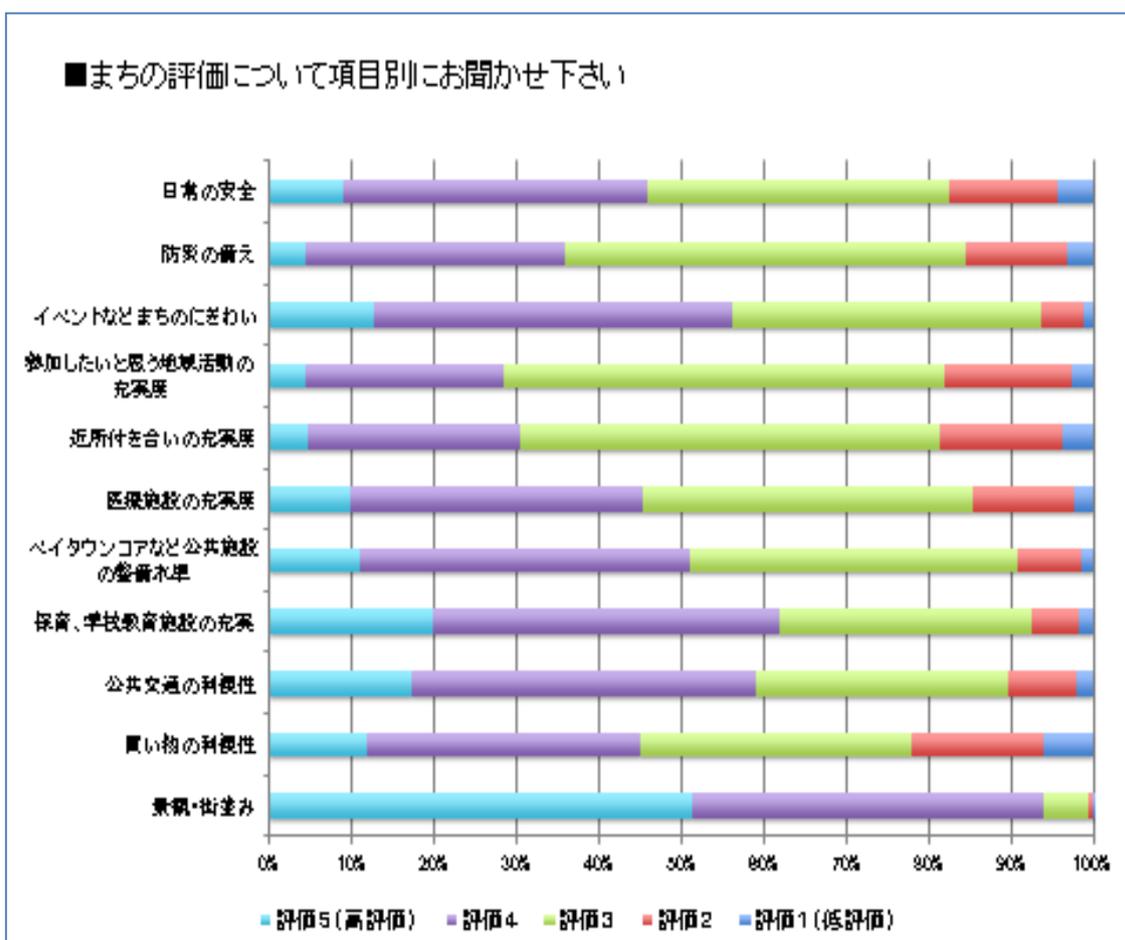
住み心地の満足度は、大いに満足が18%、満足が58%、まあまあが21%でした。大いに満足と満足を合わせて76%で、まあまあと合わせると97%が現状を良としています。多少不満・不満は3%です。年代別でみると20代から30代の若い世代ほど満足度が高いようです。

1-3 まちの評価について

景観・街並みについては多くの人が高く評価し、大いに満足している評価5が51%、評価4が43%で、合わせて94%が高い評価をしており、この街の景観・街並みが気に入り、今後とも維持・管理していくべきとの意見が多数ありました。

自由記述意見では、路上駐車に対する意見が多くみられ、交通マナーとして、事故につながりかねない危険性からと景観上の批判です。

子どもの保育や学校教育環境も高く評価され、小学校まではベイタウンで子どもを育てたい、という親御さんの意向が反映されています。公共交通機関は評価されているわりには、自由記述欄にはバスのルートやJR京葉線に対する意見記述がみられます。イベントや街のにぎわいを評価するものも多く、ベイタウンまつり、商店街の夏祭り、コアのイベント等が住民の楽しみであり、コミュニティを形成する基盤になっていると読み取れます。



1-4 ベイタウン内の住み替え

住み替え理由の多くはベイタウン内の賃貸街区から分譲へ、が約4割と高く、続いて家族構成の変化や、親の介護等による理由があり、広い所へ移りたいというも、多くは子どもの成長等によるものと推定されます。住環境が気に入って転勤や賃貸の契約期限を契機に住み替えたなどの記述もありました。ベイタウン内の不動産の流動化は、不動産価値の維持、コミュニティへ新風を吹き込む等好ましい面が多くみられると思います。

■2. 防災・防犯について

まちで快適に暮らすためには日常の安全・安心が確保されている事が重要です。また、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災時には地域では住民同士で様々な助け合い活動が行われました。そのようなことから震災後は、地域での日頃からのご近所の顔の見えるお付き合いが見直されたところでもあります。

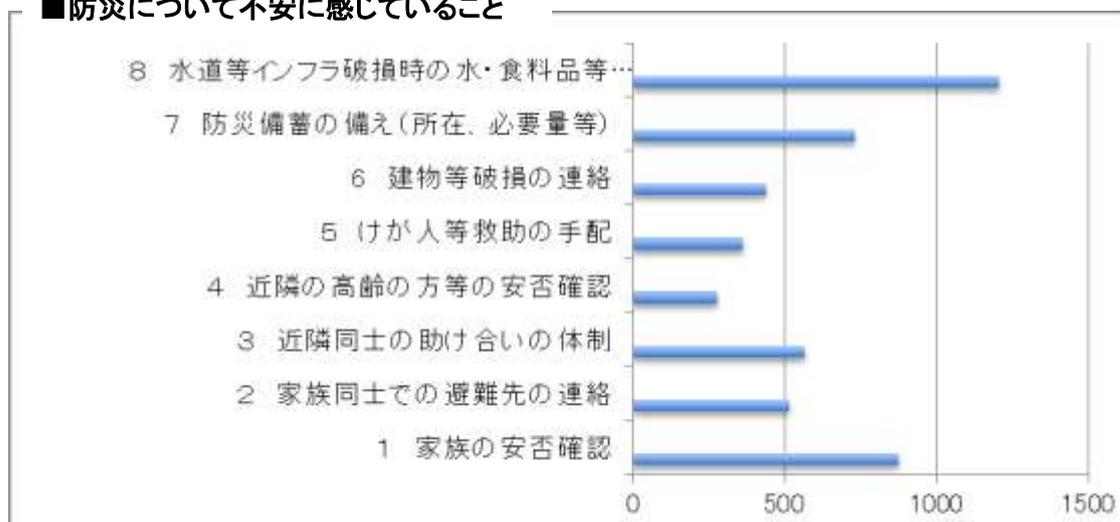
2-1 防災について不安に感じているか

防災について 2011 年の東日本大震災以降特に関心が高まったせいか、日頃から不安があると感じている人が 72%と不安がない人 28%を大きく上回っています。

2-2 防災について不安に感じていること

不安の理由はインフラ破損時の水・食料品等の調達を挙げた人が 24%と最も多く、家族の安否確認 18%、防災備蓄の場所、必要量等について 15%の順でした。

■防災について不安に感じていること



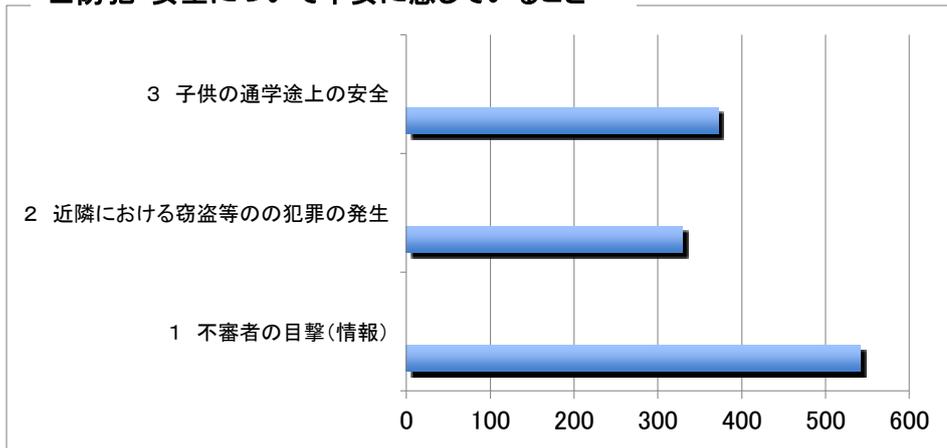
2-3 防犯・安全について不安に感じているか

防犯について日頃から不安に思っている人が 51%、不安ではないが 49%と半々です。

2-4 防犯・安全について不安に感じていること

不安の理由は、不審者の目撃、子どもの通学途上の安全、窃盗等の犯罪の発生の中で、自転車の乗り捨てや塾帰りの子どもの安全を気遣う人も多いようです。各街区の管理組合では防犯カメラを設置する等対策を講じています。

■防犯・安全について不安に感じていること



2-5 防犯・安全を確保するために地域としての取組みの必要性について
安全に対する地域の取り組みは85%が必要と答えています。

2-6 地域としての取組みの内容

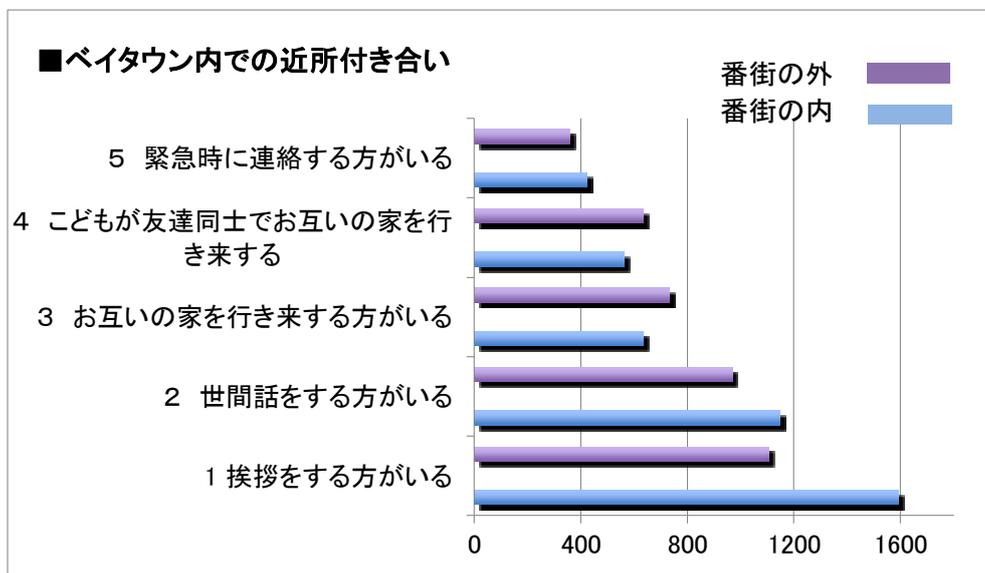
その内容としては、地域における防犯情報等の共有が一番多く、次に子どもへの日頃からの声掛けがあげられました。また学校との連携による地域の子どもの見守りネットワークも提起されています。

2-7 近所付き合いの有無

近所付き合いの状況について、付き合いがある人が74%で、付き合いがない人を上回っています。

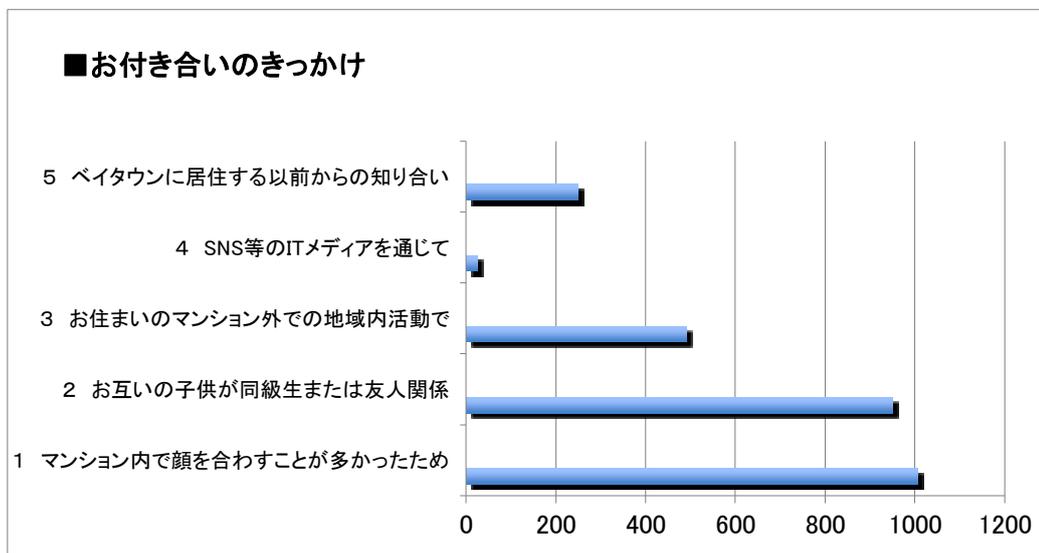
2-8 近所付き合いの状況

近所付き合いは挨拶が多く、次に世間話をするという順です。



2-9 お付き合いのきっかけについて

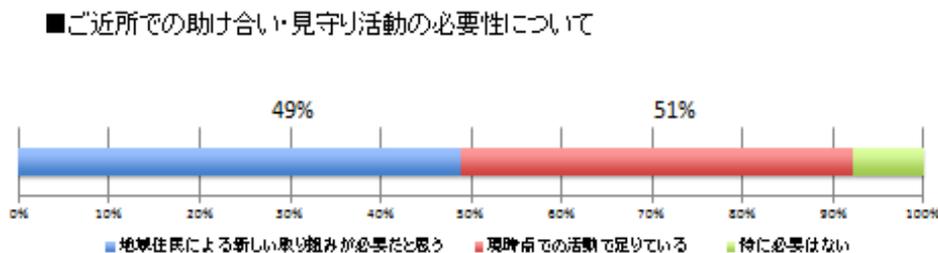
お付き合いのきっかけは、犬の散歩を通じてつきあいが始まったとする意見が各年代で大変多くみられます。また、管理組合や自治会の役員・活動を通してのきっかけも多く、つぎに各種のサークルや子どもを通しての知り合いが多いことが分りました。



全般的に見て、きっかけは顔を合わす機会の多い街区内と、子どもを通じての付き合いの始まりが多いと答えています。年代別では 30～40 歳代は、子どもを通して、が多いのですが、年齢が上がるに従い、街区内で顔を合わす機会や、街区外での地域活動などでのきっかけが多くなるとしています。

2-10 ご近所での助け合い・見守り活動の必要性について

助け合い・見守り活動の必要性については 49%の人が新しい取り組みを必要とし、特に必要はない及び現時点での活動で足りるとする人が 51%とほぼ半ばしています。



■3. こども・学校について

ベイトウンは若い子育て世代の家族が多く住んでおり、地区内の子育てや教育施設は充実しているとみられます。ベイトウンの学校はこどもを地域全体で見守るものとして、学校に塀が設置されていません。今後は、学校等とのつながりを一層深めていくことのほか、地域の住民全員で地域のこどもを見守り、育てていくことがより求められています。また、子育て世代について地域できちんと理解することも必要です。

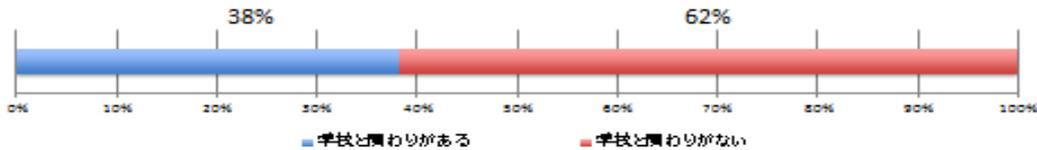
3-1 学校との関わりについて

あなたと学校の関わりについて、関わりがある、あるいは関わりを感じると答えた人が 38%で、保護者会を理由とする割合が高いです。62%の人は関わりがないとしていますが、今後子どもの見守りや、防災の協力等地域と関わるべき余地があると思われます。

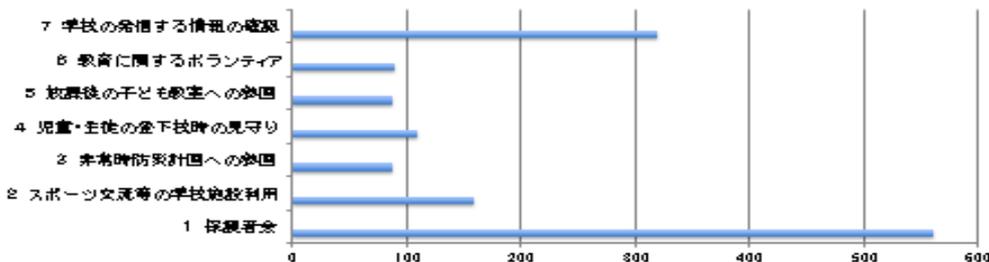
3-2 関わりがある方の理由

関わりの理由は他に学校が発信するチラシやホームページによる情報があり、学校施設開放等で、スポーツ交流による学校施設の利用も挙げられています。

■あなたと学校との関わりについてお聞かせください



■関わりがあると答えられた方、その理由は？

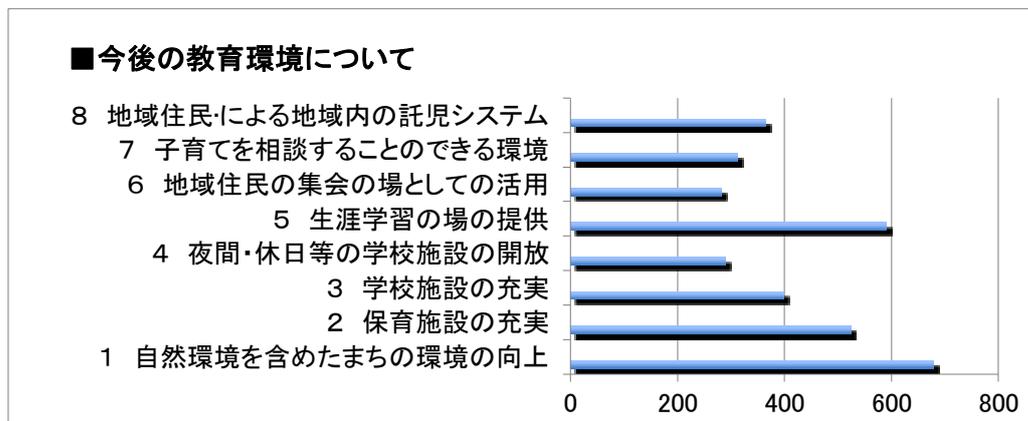


3-3 子育てに関する相談相手の有無

育児・子育ての悩みを相談する相手がベイトウンの中にいる人が 59%ですが、相談する相手がいないと答えた人が 20%いることは今後の課題かもしれません。

3-4 充実した子育て・教育環境とするために必要なこと

今後必要なこととして、自然環境を含めた街の環境の向上をあげた人が最も多く、続いて多いのが生涯学習の場の提供をあげた人でした。

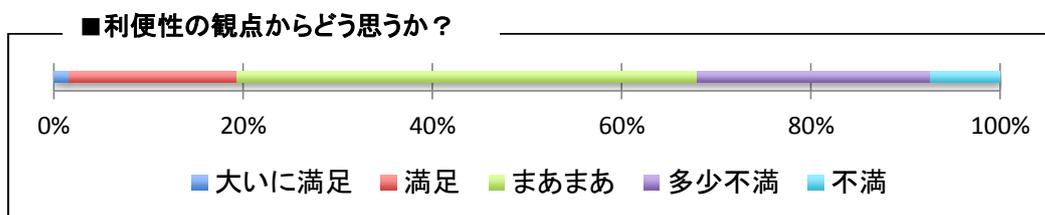


■4. 商店街について

幕張ベイタウンの商店街は、プロムナード通りの1階に店舗を配置するなど、都計画・都市デザイン上の特色があります。

4-1 ベイタウン商店街の利便性について

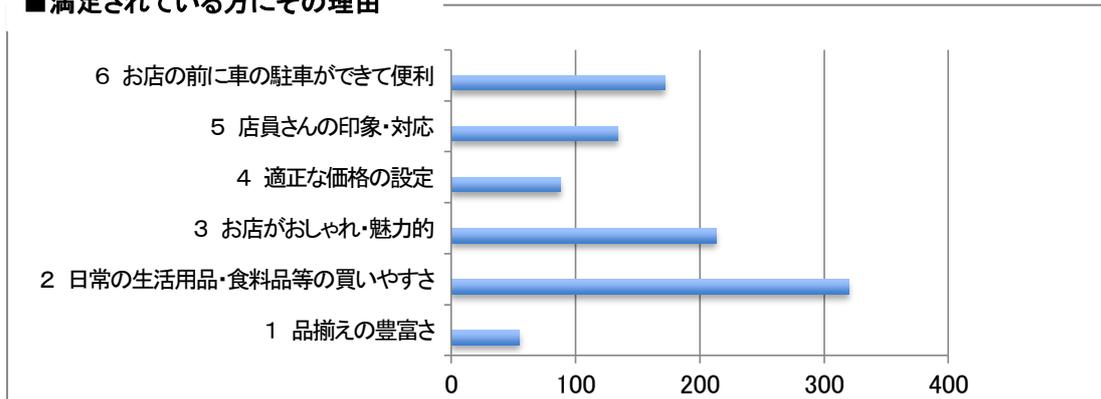
商店街の利便性について大いに満足はわずか2%、大いに満足と満足を含わせて20%、まあまあが48%ですが、多少不満と不満が32%あるのが今後の課題ではないでしょうか。



4-2 満足している理由

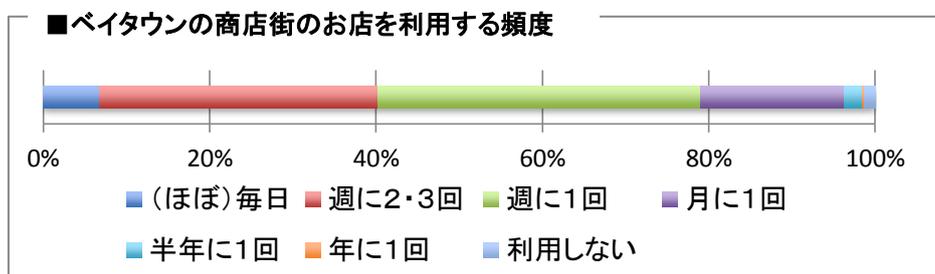
満足している理由で日常生活用品・食料品等の買いやすさを多くの人が挙げています。しかし、ベイタウンにあったら良い店の記述では、生鮮食料品店の件数が446件も上がっているのは、もっと安い店が身近に欲しいということでしょうか。お店がおしゃれで魅力的という理由を挙げた人が次に多く、おしゃれというのが、キーワードでしょう。

■満足されている方にその理由



4-3 ベイタウンの商店街を利用する頻度

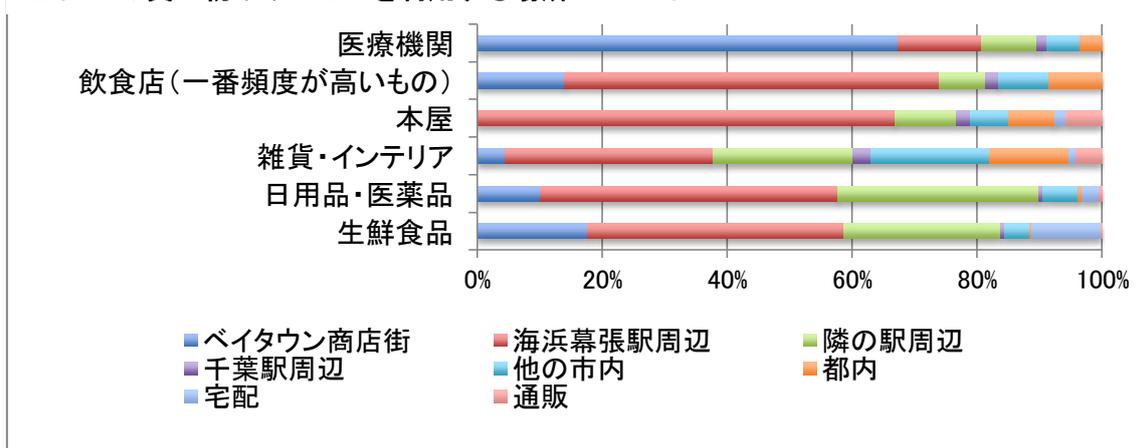
ベイタウン内で買い物やサービスを利用する頻度は、週に1回以上は79%ですが、毎日ベイタウン内を利用する人は7%と極端に落ちます。これはライフスタイルにもよりますが、ベイタウン以外のお店を利用するともみられます。



4-4 日々の買い物やサービスを利用する場所について

買い物やサービスを利用する場所については、医療機関がベイタウン内で最も多く利用され、生鮮食料品はベイタウン内18%に対し海浜幕張駅周辺が41%とベイタウン内より高くなっています。これはイトーヨーカ堂やイオンなど大型スーパーを利用という意味かも知れません。因みに宅配(含む通販)は10%です。飲食店は海浜幕張駅周辺が60%とベイタウン内の14%を大きく上回っています。これは飲食店の数やバラエティによるもので一概には比較できないかも知れません。日用品・医薬品についても、ベイタウン内では10%にとどまり、海浜幕張駅、隣の駅(検見川浜・幕張)周辺の店を利用するとの答えが多いのが特徴です。

■日々の買い物やサービスを利用する場所について



4-5 あったら良いと思うお店

あったら良いと思う店は、3,732 件の記述のうち、書店が 771 件、生鮮食料品店が 444 件、そば屋・うどん屋が 380 件、カフェが 264 件、これはオープンカフェ、チェーンカフェを合わせると 434 件となります。レストランも、寿司屋を入れて 325 件で、ラーメン屋・そばうどん屋を合わせると 766 件と本屋に次いで多いリクエストとなります。バーもスペインバルとかスポーツカフェ、ジャズバーとかユニークな意見もありました。また飲食店・カフェでは子ども連れで行ける、ペットも可とする意見がみられます。他にレンタルショップや都市銀行、介護用品等、年代によって様々な意見が出ました。(年代別の回答については巻末付表3をご参照下さい。)

4-6 不満な点やその他の意見

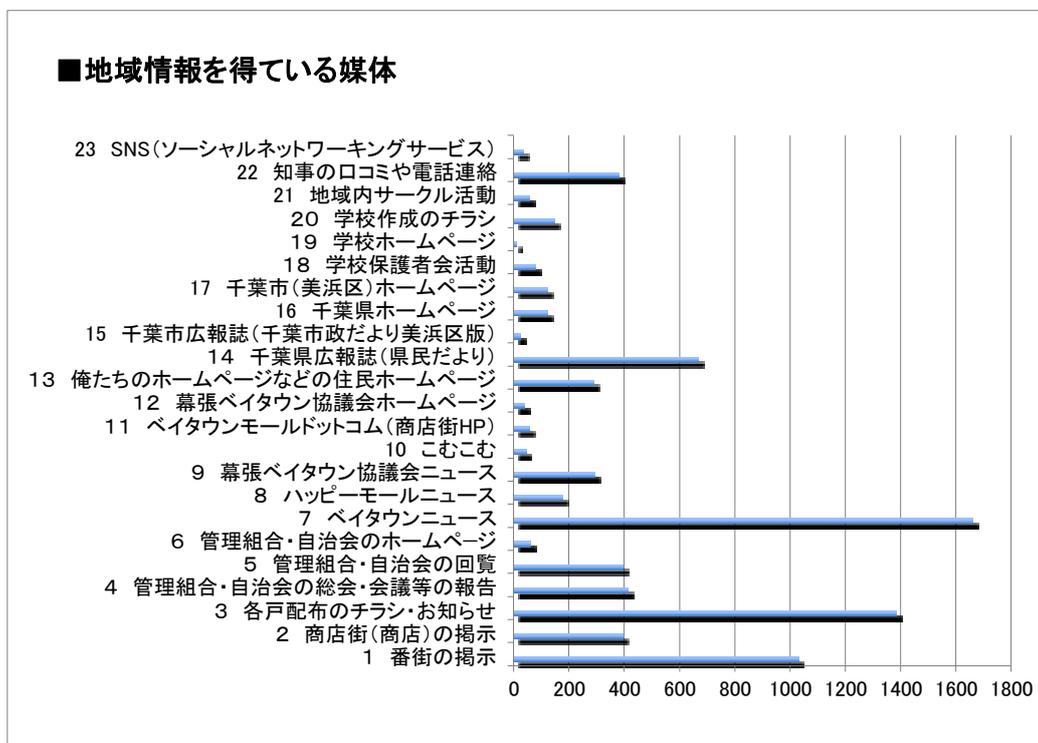
商店街に対する不満はコンビニの営業時間、店舗の場所、スーパーが高い、塾が多過ぎる、撤退店舗が多く盛り上がり欠ける、等幅広い意見が記述されました。

■5. まちの情報について

身近な地域の情報について、また現状について聞きました。

5-1 地域情報を得ている媒体について

身近な地域情報のソースはベイタウンニュースが最も多く、次いで各戸配付のチラシ等、各番街の掲示でした。



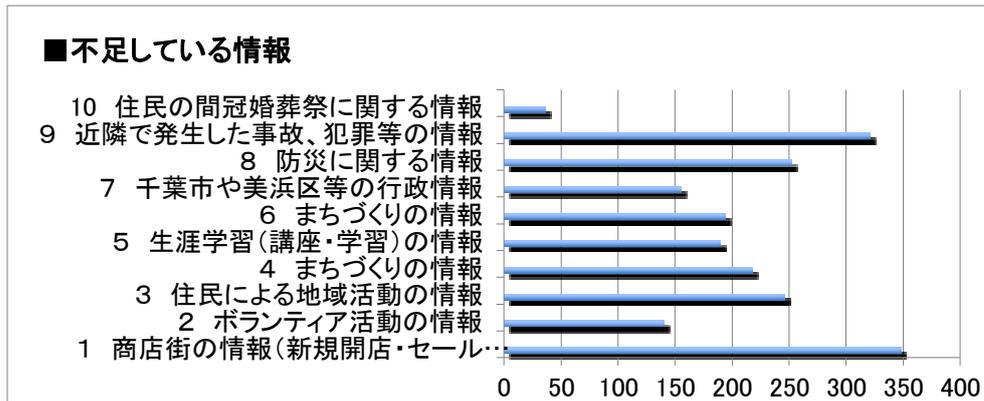
5-2 ベイタウンの地域内の情報が不足しているか

ベイタウン内の情報が不足しているかとの問いには、何がまちの情報なのか分からないと答えた人が多くいました。

5-3 不足している情報について

どのような情報が不足しているかについては、イベントや朝市、事故犯罪に関するものが多く上がりました。

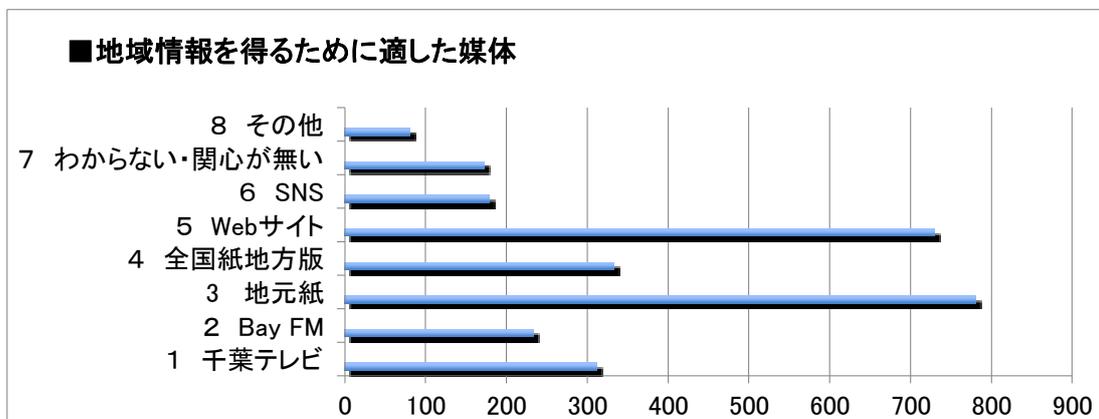
まちの活動については、協議会と自治会の違いなど背景説明や基本的なところの説明がないので、必要性も興味も今一つ湧かないとするものもありました。商店街の情報や協議会の情報を、会報やニュース等の形で流していても、見てももらえないのが実情でしょうか。



5-4 地域情報を得るために適した媒体

地域情報を得るために適した媒体として、地元紙に続き Web サイトが上げられています。

今後の対応としては情報のポータルサイトが望まれ、ケーブルテレビ等の検討も必要かと思われます。防災・防犯のみならず、高齢者の見守り体制の必要が出てくるなど、情報をどのように伝達して行くかが課題です。



■6. 地域活動・コミュニティについて

コミュニティ活動の中心として公民館、図書館があります。5割近い人がなんらかの形で利用しています。一方、その存在を知らない、特に関心がない、と回答した人もいます。利用は図書館が一番多く、次がサークル活動です。

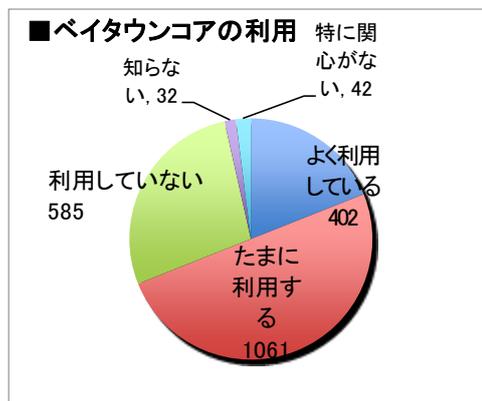
活動拠点を必要性とする理由は、サークル活動の場、高齢者の集いのサロン、子育て支援の場、子どもと高齢者世代交流の場などの福祉目的の理由が多いです。タウンセンター、地域活動の情報拠点などの意見もありました。

今後のまちづくりについての自由意見で最も多いのは路上駐車の問題でした。次が、住民活動、地域マネジメント、その次が商店街、買いもの、賑わい、その次が住民間交流、公共施設の維持管理などが続きます。

こういった住民の意識から今後の課題を抽出するとすれば、何れも住民総意のまとめを、どのように形成するかにかかっていると思います。

6-1 ベイタウンコアの利用について

よく利用しているとたまに利用する人を合わせると回答者の 1,463 人(69%)が利用しており、利用していないと回答した 585 人(28%)を大きく上回ります。しかし、特に関心がない、知らないと回答した人も 74 人います。



6-2 利用内容について

利用する人の利用内容は、図書館が一番多く次いでサークル活動です。30代 40代で発表会と言うのは子どものピアノ等の発表会であり、会議は30代と65歳以上が多く上げているのが地域活動と連動して捉えられると思います。

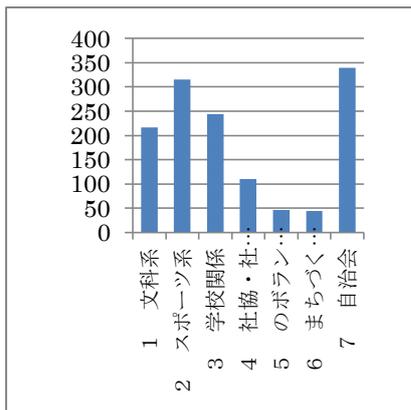
6-3 ベイタウン内の活動への参加

ベイタウン内の活動への参加の有無について、回答 2,087 の内、参加していると答えた人は 491 人(23%)、参加したことがあると答えた人は 490 人で合計しても 47%で、参加していないと答えた 1,106 人 53%の方が多くなります。これも回答者の属性により回答が変わるであろうことに鑑み、あくまで参考です。

6-4 ベイタウン内で参加している活動

マンション内自治会などの自治活動が最も多く 26%、次いでスポーツ系サークルが 24%、子どもの学校関係、文化系サークルの順でした。

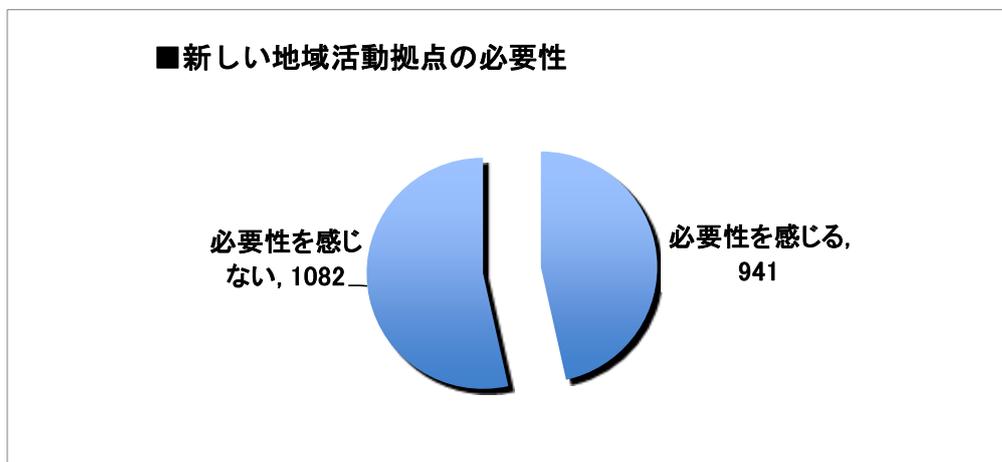
社会貢献やまちづくり活動と答えた人は 1,315 人中、それぞれ 46 人 44 人と少数ですが、いないわけではありません。



1 文科系サークル	217
2 スポーツ系サークル	315
3 子どもの学校関係の活動	244
4 社会福祉協議会・社会体育振興会等の公共団体	110
5 社会貢献等の任意ボランティア団体	46
6 まちづくり活動	44
7 マンション内自治会等の自治活動	339
計	1,315

6-5 新しい地域活動拠点の必要性

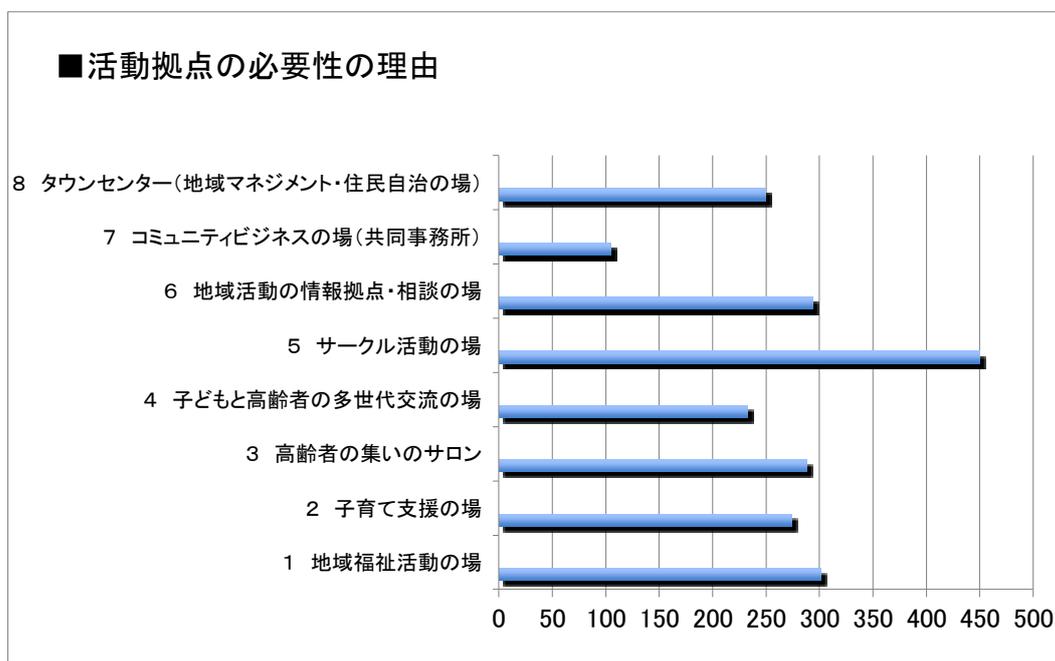
地域活動の拠点の必要性について、必要とする人は 47%で必要を感じないとする人数 53%よりやや少ない結果でした。必要とする人が半数近くいることは注目すべきです。



6-6 活動拠点の必要性の理由

拠点を必要とする人の理由は、サークル活動の場としたものが 21%と最も多く、地域福祉活動の場、地域活動情報拠点・相談の場とした人が続いて、地域マネジメントのためのタウンセンターとしたものが略同じでそれぞれ 10 数%ありました。

活動拠点とはなにかが不明確であり、必要性の有無と併せてその理由もやや観念的なものになったことは否めません。



6-7 優先的に取り組むべき課題

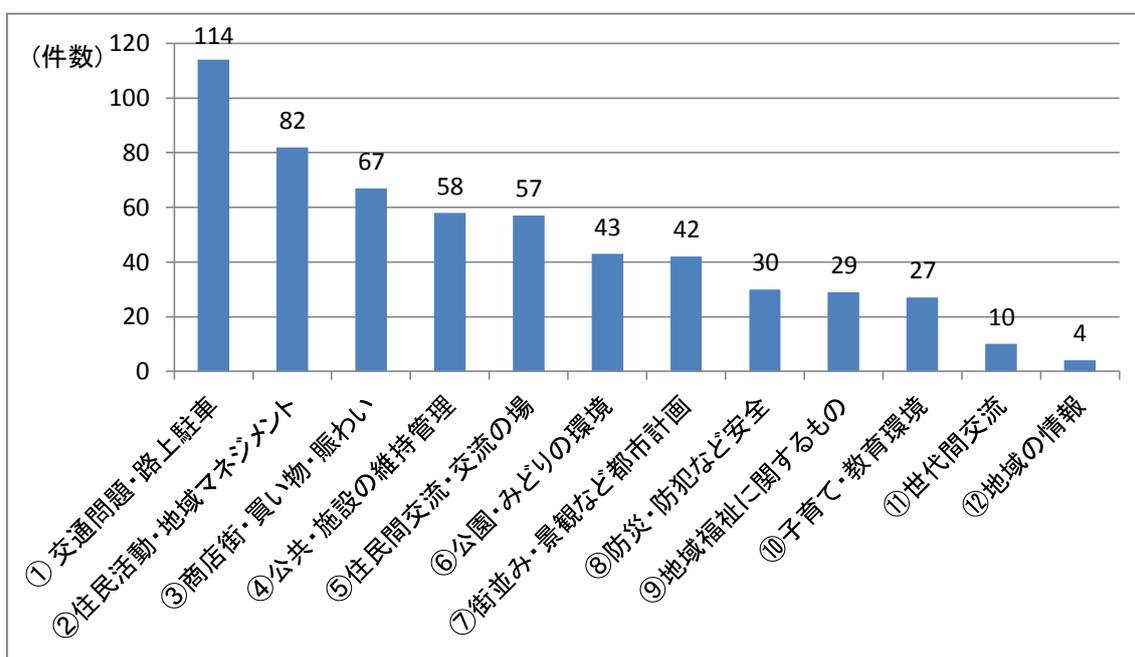
優先的に取り組むべき課題として重要度を点数で評価しましたが、評価4、5を合わせて整備水準の高い公共施設の維持が最も多く、次いで優れた景観、街並みの維持が続き、防災・防犯、安全なまちづくりがあげられています。他に商店街の活性化、自主的な公園管理・環境維持、地域福祉の充実、子育て・教育環境の充実があげられました。

Ⅲ 意見欄のまとめ

今後のまちづくりについて自由意見

563件の記述がありましたが、大きく分けて次の表のようになりました。

項目	件数	項目	件数
① 交通問題・路上駐車	114	⑦街並み・景観など都市計画	42
②住民活動・地域マネジメント	82	⑧防災・防犯など安全	30
③商店街・買い物・賑わい	67	⑨地域福祉に関するもの	29
④公共・施設の維持管理	58	⑩子育て・教育環境	27
⑤住民間交流(ご近所づきあい)・交流の場・マナー	57	⑪世代間交流	10
		⑫地域の情報	4
⑥公園・みどりの環境	43	計	563



住民活動や地域マネジメントに関する意見の抜粋は下記の通りです。

1	これからのベイトウンの在り方の展望を知りたい。住民の意思が反映される仕組みが望まれる。
2	長期的なビジョンや目標を掲げてはどうか。ビジネス地区商業地区を含めて、世界に誇れる街だと思ふ。
3	永らく住民や周囲の人たちに愛されるブランドとしてのベイトウンを維持管理しつつ、防災への対応や将来の高齢化、障害者でも問題なく住めるようなまちづくりなど、特色のある街へと変えていくようなビジョンが必要。

4	ゆとりあるまちづくりがなされていると思い、6年前に引っ越してきたが、結局そうはならずに残念に思っているところがある。空いた土地があればマンションが建てられてしまい、所詮は打瀬団地だなど思ってしまう。
5	「新たにつくられた街」＝「歴史や文化、コミュニティもこれからつくられる街」 今まだ問題意識が見えない中で、近々の問題として、コミュニティ、防災、防犯が一番に大事だと思う。しかし、新旧居住者間での挨拶や活動が希薄になっている。室外に居る事にマナーの悪さ等、気を使う事が多い。街コミュニティ活動の体制、参加づくりが難しいと感じる
6	1. 整備にとらわれ過ぎて、地価、公共費が高くなり人口自体が減らないか心配 2. 地域住民の雇用が地域内でできたら良いと思う
7	そもそもまちづくりのあり方を問うのであれば、ベイトウンがどうやって今の形となり得て、高い評価を得る街になったのかを最も最優先に考えるベースとした上で、各種活動の優先順位をつけるべきである。ベイトウンの人口が増えた今「ベイトウンとは？」という基本を将来に渡ってきちんと継続し続けられるよう、住民が共通の認識を持たない限り、他の街と変わらないただの街になる恐れがある。
8	企業庁と市の意欲の差はベイトウンの住民が埋めないと現在のベイトウンの住環境の水準は維持できないだろう。
9	文化的イベントが弱い。街を共有化したデザインが最近は見られない。例えば、商店街の通りに星座のオブジェがあるが、ベイトウン全体に星座のオブジェを設けて街全体で構成するものになるといい。街区対抗の運動会等のイベント。街を代表するオブジェ(シンボル)が欲しい。
10	街の活性化のためには、新しい考え方や文化を取り入れる必要があると思う。例えば、おしゃれな感じを追うのではなく、中身として文化や歴史を根付かせるような取組が必要かと思う。
11	素人集団でやるのは良くない。民間会社に管理運営をまかせるときっとうまくいくし、よいアイデアも出ると思う。
12	素晴らしい才能や素材のつまった街であるにもかかわらず、それらが打ち消し合ってしまうて、有効に街づくりの力になり得ていない部分が多くあるように思う。 ベイトウン全体に渡って、平等にとりまとめられる力強い機関が必要と思う。また、そのリーダーたる機関に各街区、団体が協力・連携していく体制づくりが急務かと思われる。
13	海に近いマンションの空き室を海外の人向けの短気レンタルハウスにするとか。夏のバケーション期間だけ日本に居たい人も多いと思いますし、インターナショナルスクールや小中学校で短期の児童受け入れを簡単にすればロコミで広がっていくと思います。
14	エネルギーについて:各番街の対応になるが、ベイトウンはけっこうな面積があるので太陽光発電などエコロジーを徹底するべきである。それが、電気代や給湯費を削減にもつながるが街の資産価値向上にもつながる。街の活性化の1つの案である。
15	街に対して自主的に活動する人とそうでない人の温度差がありすぎる。1か100かではなく、広く意見を募ったり、情報を取りにいける”一元化”された場所が必要。街のために活動している人も、せっかくのすばらしい活動が知られていないのでは。

16	ベイトウンは自分たちが意志を持って都市づくり、運営できる街にするべきである。高い理念をもって計画された街がそのまま市に移管されることに不安を感じる。資産価値を守るという観点でデザインやシステム、住民の良質なコミュニティ、教育・子育て環境は高い水準を保つ必要がある。
17	マンションの老朽化が進み、管理費が高くなる事で居住者が少なくなると思うので地価を下げる必要があると思う。また、老人の方が年金で生活できる環境にしないと他の場所に移住してしまう可能性が高い。海上交通で台場までつなぐことにより、交通面での優位性、また“play spot”としての需要も向上すると思う。商業施設を建設すれば、現実的な話になると思う。
18	現在の水準を税金のみでまかなうのは困難だと考え、住民一人一人の出資が必要だと思う。毎日少しのお金でできることはたくさんある。そしてそれは、街の住民レベルの維持、資産価値の維持にもつながると思う。
19	将来にわたって持続的な活性化した街でありつづけられる様さまざまな世代が住む街にしていく必要がある。多様性(さまざまな国民族の人も気軽に住める)を受け入れることが持続的な活性化へと繋がる。千里や多摩のようなかつてのニュータウンのように気がついたら年寄りばかりの団地にならないよう常に新しい人に入ってもらえるような街にしたい。
20	コミュニティづくりに対して、大規模マンションや賃貸マンションの住民がどうすれば参加してくれるかを考えるべき
21	ベイトウンに住む人の定着性は分からないが、愛着や帰属意識を強くする施策ができれば、寄付やボランティアをより有効に活用したまちづくりができると思う。
22	リーダーシップを握る方が転居するような状況の変化も発生するかもしれないため、継続性について十分留意して進めてほしい。ボランティア精神だけでは済まない場面もあるため、財政基盤をしっかりとつけてほしい。
23	住民の意識、認識、情報には温度差があり、多様な価値観があってもよいが、無関心や人任せ、押し付けはなにも生まない。ベイトウンに住むユーザー・プレーヤーが意思を持つ、あるいは思いを預託する、発意することがなければ批評家で終わってしまうだろう。
24	ベイトウン協議会の方々は、地域活動にとっても貢献していると思うが、先ず世代交代を考えるべき。若い人、女性の意見を積極的に取り入れて、世代交代をルール化する組織づくりに力をいれてほしい。自治会などの役員の一定割合(40%)を女性にする。女性が多く活動しているこの街で女性の役員は必要。
25	定期借地であることのメリットを感じられず、むしろコスト(地代)がかかることや中古価格の低下などマイナス面が見えてしまう。また土地価格が下がっているのに、地代は変わらず、適正な水準にあるのか疑問。所有者が転出し賃貸となったものが増えている。長く住み続ける人が多い街であることも住み良い街の大切な要素ではないだろうか。

IV 結びとして

～ベイトウンの課題・住環境の維持

結論として、住民の大多数は住宅や街並み、景観等の暮らしの環境には満足しており、商店街や住民のマナー、コミュニティのあり方に多少の不満を有していても、幕張ベイトウンの都市計画に肯定的であることがわかりました。しかし、この環境がこのまま維持されるのでしょうか？ハードとしての住宅や街並みは評価されていますが、経年劣化しますし、社会・経済面での環境変化も起こります。まちを支えていくのは、ユーザーである住民です。住民として、まちを意識しまちに対して関心を持ち続けることが重要です。要は、コミュニティのあり方が問われるのだと思います。

アンケートでは、たくさんの意見や提案が出されました。回答者それぞれの価値観や利害があり、ここからまちの統一的な課題を抽出するのは困難な作業です。また、設問内容が一部重複するなど総花的で多岐にわたり過ぎ、アンケート全体として、やや統一感がなかったことも反省点ではあります。

しかし、住民の方々に、これだけの数の多様な意見を表明していただく貴重な機会を提供した意義はあったと考えています。後は、いただいた意見や提案をいかに実行の場に移すかです。アンケート結果から特定の課題テーマに絞り込むことはできませんでしたが、課題毎にグループ化してまとめたものから、今後のベイトウンのまちづくりの課題を読み取っていただきたいと思います。

沿道型のまちの構造やオープンスペースの配置街区毎の中庭(パティオ)の評価については、「設問7. 住棟・街の住みこなし」の項目として、千葉大学大学院中山研究室の学生たちの研究論文に譲ります。また、この場を借りて、膨大なアンケートデータ(回答 15 万項目)を集計し、文字情報を入力してくれた学生諸君に心からの謝意を表したいと思います。

ベイトウンでは、平成 19 年(2007 年)にも全住民アンケートを実施しました。その結果は、居住者、千葉市、住宅事業者、千葉県企業庁からなる「幕張新都心住宅地区コミュニティ・コアの拡充整備検討会」がまとめた「コアの拡充整備(将来整備施設)に関する報告書(平成 20 年 3 月)」に反映されました。また、県企業庁の「幕張新都心住宅地区の管理・運営のあり方に関する研究会(「あり方研」と略称)」の平成 21 年(2009 年)3 月の報告書においては、まちの管理運営機構の全体イメージが示されています(幕張ベイトウン協議会ホームページ <http://www.bt-machi.com/> の「幕張ベイトウンとは」の中の PDF 参照)。このような幕張ベイトウンの未来型の都市計画は世界にも通用するといわれていますが、この差別化された高品質の公共施設・インフラ

を維持するためには、通常の公共施設の維持管理に要する以上のコストが掛ることが当初より想定されていました。しかしながら一方では、公的な立場からまちづくりを担う地方自治体は、財政難の問題に直面しています。

平成25年4月1日から、県企業庁の新都心整備部が後継組織に組織改組され開発部門がなくなります。県企業庁から公共施設等に移管される千葉市が、住宅地区をどのように引き継ぐのか、デザインガイドラインの考え方を引き継いでくれるのか、財政上の理由からベイトウンの公共施設の今までの水準での管理に支障が生じないのか、等の疑問点が多々あります。管理運営機構の構想は継続されているのでしょうか。幕張ベイトウン協議会は、昨年、「あり方研」の場で課題一覧11項目を提出し問題提起をしましたが、十分に議論をつくせぬまま今日を迎えています。

これまでベイトウン協議会は、準備会の段階から、シンポジウムやベイトウン三十六景の募集、景観ガイドツアー等の事業を展開し、まち育てニュースや協議会ニュース、ホームページ等で情報を伝えてきたつもりです。しかし、アンケートの結果を見ると、必ずしも住民の多くが、まちの成り立ちや公共施設移管の問題点を理解しあるいは関心を持っている、とは言えないような印象を受けます。各街区の自治会や管理組合或いは各団体の代表の方々と情報の共有化を図っていますが、一人一人の住民レベルにまで情報が伝わっているのでしょうか。アンケートでは、上述したベイトウンの現状を踏まえ、「設問6. 地域活動コミュニティ」において、活動拠点が必要ではないかとの認識の下にまちづくりの課題を問いかけたところ、多様な意見が出されました。意見の汲み上げ方法や情報の伝達・共有化の仕組みは、今後の課題の一つであると考えています。

一方、平成25年1月に開催したアンケートの報告会で、子ども円卓会議として小中学校の生徒達が報告してくれた内容は、具体性を持ち大人の意見に共通するものがあります。その報告の中で、①ベイトウンの今や歴史、課題をよく知る②進んで関わる③互いに思いやる、の3点を挙げていますが、まちを引継ぐ若い世代の子どもたちが、このような意識を持ち育ってくれることは頼もしいことです。

ベイトウン協議会では、コア横の打瀬小旧子どもルームを転活用してまちづくりの活動拠点とするべく調整を進めています。さらに、隣接するオープンスペースの活用も含め、元々県企業庁がタウンセンターとして構想し断念したものを引き継げないかと議論をしているところです。ベイトウンの土地資産を活用した事業の創出等により資金を捻出し、まちのマネジメントを事業化して行く将来の方向も考えられます。

議論を実行に移すことは、財源や人材の確保も要し時間がかかる部分が多々あります。紆余曲折はあるにせよ、「新しい公共」という概念が行政側にもあるのならば、円卓会議の形などで住民と行政が協働して、住環境の維持・向上を図りベイトウンの資産価値を守っていく可能性があるのではないのでしょうか。人それぞれに多様な価値観はあるとしても、住民が何らかの形で活動に関心を持ち、参加し、まちづくりを支援していくことは、ベイトウンの資産価値の維持につながります。それは政令指定都市千葉市の利益となり、住民それぞれの利益にもつながるのではないのでしょうか。

(完)

クロス集計について

ベイトウン住民アンケート調査(平成 24 年 8 月実施)分析 ～年齢・世帯別の視点から～

(注)10代・20代については、そのデータ数が極めて限られているため、以下の考察において対象から除外している。

0. 属性調査

0-3 家族構成

- (アンケート記入者が)60歳以上において、「ひとり世帯」(1割)及び「夫婦のみ」(5～6割)の比率が高い。

0-4 性別

- 60歳以上において、男性の比率が7割。
→60歳以上において、主として男性の意見が反映される可能性に留意。
- 40代以下において、女性の比率が5～6割。
→40代以下において、主として女性の意見が反映される可能性に留意。
- 「夫婦のみ」において、男性の比率が6割。
→「夫婦のみ」において、主として男性の意見が反映される可能性に留意。

1. まちの評価について

1-1 居住年数

- 50代以上においては、居住年数の長い(11年以上)世帯の比率が高い(6割)。
- ほぼベイトウン創設時から居住している者が50代以上に集中(各世代の3割)。
- 30代及び40代のほとんどは、ベイトウン入居時の年齢が20代から30代と推計。
→ベイトウンで初めて住宅取得か。

1-2 住み心地

- 全世代共通して住み心地に満足しており、さらに若い世代ほど満足度が高い。

1-4 住み替え経験

- 若い世代ほどベイトウン内での住み替えの比率が高く、居住年数とは比例しない。
→子供の誕生など世帯構成の変化が主要因か。

○30代においては、住み替え比率が高く(2割)、10年以下の居住年数でも住み替え。

→ベイトウン内の賃貸住宅から持家(分譲マンション)への転居か。

○40代においては、居住年数が長いほど住み替えすると仮定すれば、居住年数が11年以上(40代の3割)のほとんどが住み替えを経験。

○60歳以上のほとんどは、ベイトウン内での住み替え経験がない。

→ベイトウンへの入居は主に40代後半から50代と推計されるため、世帯構成が安定(世帯構成員が増えない)してからベイトウンに居住か。

または、住み替える際にベイトウン外に転出か。

○以上の分析から、ベイトウン全体が、世帯構成の変化等による住み替え需要の受け皿となっていると評価できるのではないか。

2. 防災・防犯について

2-1 防災についての日頃からの不安

○子供がいる世代の不安感が大きい。

2-2 防災に係る不安の内容

○60歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、「近隣の高齢者の安否確認、避難誘導」「近隣同士の助け合いの体制」の比率が高い。

2-3 防犯・安全についての日頃からの不安

○60～64歳の不安感が大きい。

○子供がいる世代の不安感が大きい。

2-4 防犯・安全に係る不安の理由

○50代以上及び「夫婦のみ」において、「近隣における窃盗等の犯罪の発生」について強く不安を感じている。

○「ひとり世帯」において、「不審者の目撃(情報)」「近隣における窃盗等の犯罪の発生」について強く不安を感じている。

2-7 近所づきあいの状況

○60歳以上において、近所づきあいがない比率が高い。

→回答者に男性が多い影響か。

○40代以下において、近所づきあいがある比率が高い。

→回答者に女性が多い影響か。

○「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、近所づきあいがない比率が高い。

○子供がいる世代において、近所づきあいがある比率が高い。

2-8 番街内のつきあい状況

○50代以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、つきあいの密度が高い相手の存在が少ない傾向。

→子供が媒介するつきあいの有無が原因か。

2-8 番街外のつきあい状況

○50代以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」は、つきあいの密度が高い相手が「番外内のつきあい」よりは多く存在。

→何らかの活動を通じた意識的なつながりが要因か。

2-9 つきあいのきっかけ

○30代及び40代は、主に子供が媒介。

○65歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」は、マンション外での地域活動が比較的重要な役割。

3. こども・学校について

3-2 関わりがある方の理由

○60歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」は、学校と関わりを持つ世帯の比率は低い。関わり理由は「学校施設利用」「登下校時の見守り」「子供教室への参画」等の多岐にわたる。

→保護者会等の義務的なものではなく、任意ではあるが主体的な関わり。

3-4 充実した子育て・教育環境とするために必要なこと

○50代以上において、「生涯学習の場の提供」を求める比率が高い。

4. 商店街について

4-1 商店街の利便性

○60歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、「不満」の比率が高い。

→地元商店街に他世代より期待しているが、期待に十分には応えてくれないということか。

4-3 商店街の利用頻度

○50代以上は、週に2・3回以上の頻度で利用する比率が高い。

5. まちの情報について

5-1 身近な地域の情報はどこから得ていますか

○60歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」は、ベータタウンニュース等の主要な情報源に加え、他の多様な情報源からもきめ細かく情報収集。

5-3 不足している地域情報

○「商店街」「住民による地域活動」「防災」「事故、犯罪」に関する情報への強い要求が、各世代にはほぼ共通する傾向。

この中で60～64歳は、これらの情報に加え、他の多様な地域情報も等しく要求。

5-4 地域情報を得るために適した媒体

- 50代以下は、「Webサイト」「地元紙」を適切な媒体と認識。
- 60歳以上は、これらの媒体に加え、「全国紙地方版」「千葉テレビ」も等しく適切な媒体と認識。

6. 地域活動・コミュニティーについて

6-1 ベイタウンコアの利用

- 65歳以上の利用頻度が突出。

6-3 ベイタウン内の活動への参加

- 60歳以上において、活動に参加している比率が高い。

6-4 参加している・参加したことがある活動内容

- 60歳以上及び「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、「文科系サークル」に参加している比率が高い。
- 30代に加え65歳以上においても、「スポーツ系サークル」に参加している比率が高い。

6-5 新しい地域活動拠点の必要性

- 65歳以上において、地域活動拠点の必要性を感じる比率が高い。

6-6 地域活動拠点の必要性の理由

- 「地域福祉活動の場」「高齢者の集いのサロン」は世代年齢が高いほど、「子育て支援の場」は世代年齢が若いほど、必要性を感じる比率が高くなる傾向。
- 「ひとり世帯」「夫婦のみ」において、「地域福祉活動の場」「高齢者の集いのサロン」「タウンセンター」の必要性を感じる比率が高い。

付表 2-1

アンケート回収データ

	街区名称	住戸数	回収数	回収率		街区名称	住戸数	回収数	回収率
1	パティオス1番街	117	37	32%	23	ミラリオ(UK)	445	32	7%
2	パティオス2番街	120	56	47%	24	東の街	385	95	25%
3	パティオス3番街	114	31	27%	25	西の街	385	104	27%
4	パティオス4番街	110	45	41%	26	CPE	488	126	26%
5	パティオス5番街	113	44	39%	27	CPW	502	148	29%
6	パティオス6番街	118	47	40%	28	ミラマール(UK)	235	24	10%
7	パティオス7番街(UK)	110	9	8%	29	マリンフォート	393	86	22%
8	パティオス8番街	125	51	41%	30	幕張サウスコート	218	50	23%
9	パティオス9番街(公社)	105	8	8%	31	エクシア	188	36	19%
10	パティオス10番街	120	36	30%	32	アバンセ	224	83	37%
11	パティオス11番街	175	41	23%	33	シティーズ フォート	383	92	24%
12	パティオス12番街	136	38	28%	34	ファーストウィング	410	103	25%
13	パティオス13番街(公社)	105	11	10%	35	アクシブ	228	101	44%
14	パティオス14番街(公社)	110	26	24%	36	エリスト	184	59	32%
15	パティオス15番街(UK)	115	11	10%	37	ビーチテラス	360	141	39%
16	パティオス16番街	105	34	32%	38	ブエナテラーサ	290	100	34%
17	パティオス17番街	110	45	41%	39	アクアテラス	250	45	18%
18	パティオス18番街	115	39	34%					
19	パティオス19番街	150	50	33%					
20	パティオス20番街(UK)	190	15	8%					
21	パティオス21番街	200	45	23%					
22	パティオス22番街(UK)	200	6	3%	合計	8431	2150	25.50%	

集計データ

2012.1

家族構成									
年代 世帯	10代・ 20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳以 上	小計	未記入	再計
ひとり世帯	1	15	42	29	19	35	141		
夫婦のみ	5	70	140	92	88	181	576		
親と子ども	9	248	675	294	59	69	1,354		
親と子ども と祖父母	0	4	8	7	2	3	24		
その他	1	5	7	6	3	6	28		
	16	342	872	428	171	294	2,123	27	2,150

年代									
年代	10代・ 20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳以 上	小計	未記入	再計
計	16	342	873	428	172	296	2,127	23	2,150

性別									
年代 性別	10代・ 20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳 以上	小計	未記入	再計
女性	14	208	516	188	50	81	1,057		
男性	12	124	308	210	100	200	944		
計	16	332	824	398	150	281	2,001	149	2,150

居住年数									
年代 年数	10代・ 20代	30代	40代	50代	60～64 歳	65歳 以上	小計	未記 入	再計
1年未満	0	19	23	4	2	2	50		
1～5年	8	164	185	42	24	38	461		
6～10年	4	139	394	118	45	81	781		
11～15年	2	17	192	139	43	97	490		
15年以上	2	3	68	119	57	70	319		
							2,101	49	2,150

(4-5)商店街にあったらいい店

付表 3

	10代・20代 ・30代	40代	50代	60歳以 上	合計
デパート	0	1	1	3	5
スーパーマーケット	43	69	27	31	170
コンビニ	30	23	12	7	72
その他	8	12	6	2	28

生鮮食料品店	105	156	85	98	444
食料品店	5	10	5	2	22
パン屋	47	69	27	11	154
ファーストフード	17	36	8	6	67
弁当	16	36	17	4	73
ファミレス	5	10	9	3	27
飲食店	16	54	35	18	123
蕎麦屋・うどん屋	35	76	96	173	380
寿司屋	18	43	39	75	175
ラーメン屋	7	17	18	19	61

カフェ	88	114	21	41	264
オープンカフェ・	27	52	19	14	112
チェーンカフェ	18	29	5	6	58
居酒屋	13	27	30	34	104
バー	17	39	15	12	83

衣料雑貨等	62	147	34	52	295
書店	149	359	144	119	771
銀行・サービス*1	43	67	37	10	157
医療機関・介護・薬屋他*2	19	32	20	16	87
	788	1,478	710	756	3,732

*1 サービス : レンタルショップ、リサイクルショップ、レンタカー、スポーツジム、音楽スタジオなど

*2 他 : インテリア、ペットショップ、ベビー用品、銭湯、マッサージ、メガネ屋、靴修理屋など

平成 25 年 1 月 19 日
 ベイタウンマネジメント円卓会議（新しい公共モデル事業）
 ・こども円卓会議発表（抜粋）

小学校 3 校と打瀬中学校を代表して、本日は私たちが『私たちの夢のまちベイタウン』についてお話をさせていただきます。これからお見せする映像とお話することは、小中学生 4,000 人のこどもたちの理想、そして願いです。

今日は私たち小中学生が取り組んできたまち歩きや絵画・作文、円卓会議などについて紹介して行きます。また、話題については、円卓会議を通して私たちなりの解決策を出しました。

私たちが考えるまちづくりのキーワード	私たちがスタートさせたい活動
1. よく知る(ベイタウンの今や歴史、課題) 2. 進んでかかわる 3. 互いに思いやる	・あいさつ運動 ・クリーン作戦 ・みどりを増やす運動 ・シンボルマークづくり ・楽しい行事の提案

応募された絵画や作文を見てみると、子供たちの願いとしてはみどりの多いまちにしたい、明るく活気のあるまちにしたいやまち全体で何かをしたいと思っていることがわかりました。そして私たちがそれを実現するにあたって、やらなくてはならないと考えていることは、一つめにベイタウンの今や歴史、課題を知る。二つめに自分たちから積極的に進んで関わる。三つ目にお互いを思いやるということなのです。これらを取り組んでいくことでベイタウンがよりよくなっていくと思います。そして子どもたちが子どもたち同士で互いに思いやることができるようになっていくと、さらにいいと思います。しかし大人の方どうしが互いに思いやっていないことには始まらないのではないのでしょうか。大人の方は普段私たち子供の面倒を見てくださり、お仕事をなさっています。お忙しいとは思いますが、やはり住民全員が一丸となって取り組んで行けるようにしたいです。

最後に私たちはこどもです。子どもも頑張りますが大人も頑張ってください。ベイタウンをより良くしたいという気持ちは皆同じです。これで私たち子供の意見報告を終わりにします。ご静聴ありがとうございました。